

3人の子を持つママさん議員

富士子ちゃん通信

群馬県議会議員 かがや富士子

第7号

お世話になっております。
県議会議員のかがや富士子です。

平成30年第2回定例会が開かれました。私達議員は、5種類ある常任委員会と4種類ある特別委員会にそれぞれ所属することになっており、この第2回定例会で、どの委員会に所属するかが決められました。私は県の環境森林部と農政部を担当する「環境農林常任委員会」に所属し、特別委員会は子どもの貧困や障害者、高齢者の支援などを審議する「弱者・高齢者対策特別委員会」に所属することになりました。

皆様のご意見、ご要望をお待ちしております。

VOL.
07
2018

「みんなの学校」映画上映・講演会

境総合文化センターで「みんなの学校」と言う映画の上映と、映画に出てくる当時の校長先生だった木村泰子先生の講演会を開きました。

「みんなの学校」は大阪にある公立小学校のドキュメンタリー映画で、この小学校は不登校ゼロ、特別支援学級もなく障害のある子もない子も、みんな同じ教室で学び合います。子ども達の共に成長する姿に感動しましたし、今、こういった学校が求められているのではないかと感じました。

当日は約700名の方に参加していただき、盛況に開催する事ができました。学校の先生、民生委員さん、行政の方と本当に多くの方に参加していただき、こう言った公立小学校がある事を知って頂けたことは良かったと思います。群馬県でも、保護者や地域を巻き込んだ「すべての子どもに居場所のある学校」となるような学校作りが出来ればと思います。

来て頂いた方、チケット売り等協力してくださった方、本当にありがとうございました。



講師の木村泰子先生と

富士子ちゃんの
ひとことコラム

子どもが3人いると洗濯物を干したり畳んだり大変です。いつも畳み切れずに山になってしまいます…。



ぜひ皆様の声を
かがや富士子に
聞かせてください。

かがや富士子事務所

☎ 0270-22-2451

✉ fujiko_kgy@ybb.ne.jp

〒372-0006

群馬県伊勢崎市太田町 564-1-2-2

TEL: 0270-22-2451

FAX: 0270-22-2455

ブログ・facebook 更新中

かがや富士子 検索

www.kagayafujiko.com

群馬県議会議員かがや富士子の県議会報告書・活動報告
富士子ちゃん通信 第7号 2018年7月
リベラル群馬 発行人 加賀谷富士子
〒372-0006 群馬県伊勢崎市太田町 564-1-2-2
TEL: 0270-22-2451 FAX: 0270-22-2455

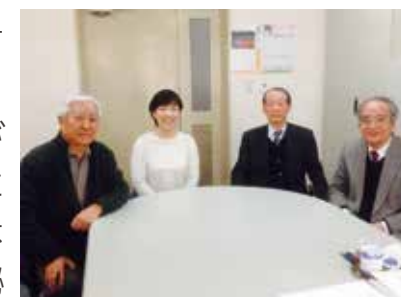


毎月第3土曜日は
無料法律相談・困りごと相談

日時：毎月第3土曜日 13時～15時受付
(8月の相談会はお休みです。)

場所：中央労働金庫伊勢崎支店2F
伊勢崎市今泉町 1-22-11

離婚、相続、交通事故、後見人などの法律に関するお困りごと、県行政、市行政に対する相談事がありましたら、お気軽にご相談ください。相談は無料です。相談内容の秘密は厳守いたします。



矢島前市議、加賀谷、山田弁護士、塚越前県議

弁護士が
参ります。

環境農林常任委員会と弱者・高齢者対策特別委員会で取り上げた事をご紹介させていただきます。

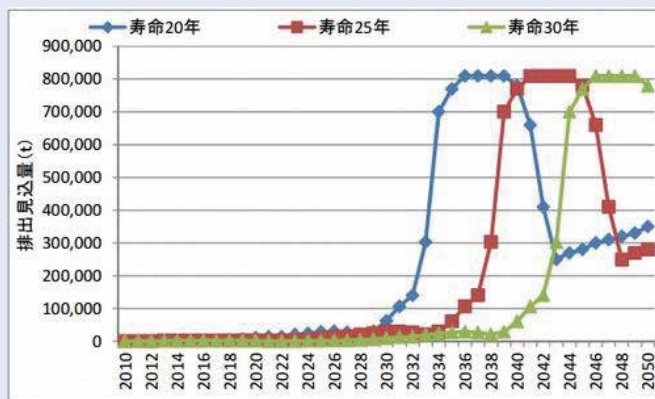
環境 森林部

太陽光パネルの廃棄処分について

Q 太陽光発電の急速な普及に伴い、将来的には太陽光パネルの大量廃棄が見込まれる。

他県では、民間と行政で太陽光パネルのリサイクル研究事業を実施している例もあると聞いているが、県内でもそういった事例はあるのか。

A 太陽光パネルの導入状況や耐用年数等を考慮すると、2040年過ぎ頃から大量廃棄が発生するものと見込まれる。



太陽電池モジュールの排出量の見込み 出典：環境省

国では、平成28年3月に「太陽光発電設備のリサイクル等の推進に向けたガイドラ

イン」を定めたところであり、リユース・リサイクルのための技術開発が行われている。全国的に研究が進められていることから、本県でも将来的には対応できる業者が出てくるものと考えている。

アルミやガラスなどパネルを構成する素材の95パーセントがリサイクル可能となっています。既にリサイクルの技術は確立されていますが、社会的制度が確立されていない状況です。2040年を迎

える前に社会制度の確立を要望しました。

去年、ニッコウキスゲが咲く時期に尾瀬にハイキングに行きましたが、ニッコウキスゲがほとんど見られませんでした。ニホンシカによる食害が原因の様です。「尾瀬のニホンシカの捕獲状況について」質問をし、他に「産業廃棄物処理施設における公共関係の在り方」に関する検証の進捗状況についても質問をしました。

農政部

農業の第三者継承について

Q 後継者のいない農家さんに第三者（新規参入者）に事業を継承させるために県はどのような支援を行っているのか。

A 第三者継承に向けた支援は、関係機関や農業者が連携を図りながら進めている。例えば、事業面では市町村、資金や販売面ではJA、技術指導は生産組織の役員や農業経営士等の農業者が中心となって支援している。

には、高齢化や産地の維持が難しいなどの事情があると考えている。

農業を辞めてしまう人と新規に農業を始めた人をマッチングさせ第三者継承を進めるには、農家さんに理解、協力して頂く必要があります。明和町などは特殊な事情があつて第三者継承が進みました。県全体で進めて行くとなると相当な労力が必要ですが、第三者継承が着実に進むよう要望しました。

他にも、今年度から群馬県の新規事業で始まった農業と福祉を繋ぐ「農福連携について」、減農薬、減化学肥料で栽培する「環境保全型農業について」質問をしました。

弱者・高齢者 対策特別委員会

子ども食堂や無料学習塾について

Q 群馬県では子ども食堂や無料の学習塾などの「子どもの居場所づくり」に対して設立時に補助金を出し、昨年度は16団体が申請していると聞いている。事業は立ち上げよりも継続が大変である。子ども食堂などの取組を始めている団体は、行政や学校、民生委員などと連携しているのか。

A 団体と行政等との協力体制が築きやすくなるよう、市町村等との情報共有や、セミナー等での成功事例の紹介などの取組を進めたい。

運営者から話を聞くと、学校との連携が難しく、支援が必要と思える子に情報を伝えられるかどうかは各学校長の対応により変わってくると聞きます。せっかくこう言った

事業を始めても、情報が行き届かなければ意味がありません。教育委員会と連携をし、支援が必要な子に支援がきちんと届くよう要望しました。

Q 子ども食堂の実施に当たっては、許可の適用基準の運用が各保健所・保健福祉事務所で異なるという。地域ごとに偏りが出ないよう取り扱ってもらいたいが、どうか。

A 許可については、中核市の保健所を含めて現状把握と情報共有をしっかりと行い、統一的な取扱いに努めてまいりたい。

地域によって、子ども食堂が出来る場所と出来ない場所の偏りが無いよう対応を求めました。

